

北海道厚真高等学校卒業証書授与式祝辞

厚真高校第3学年37名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

そして、保護者の皆様、学校長を始め諸先生の皆様、重ねてお祝いを申し上げます。

まだまだ寒い日が続いていますが、間もなく新しい門出、旅立ちにふさわしい春が訪れます。卒業生の皆さんは、その日を心待ちにして心躍る気持ちだと思います。

皆さんは、この3年間に厚真高校の生徒として、学生の本分である勉強に、クラブ活動に、或いは生徒会活動に情熱を注ぎ、青春の血をたぎらし、たしかな友情を深めあったと思いますが、その他にボランティアやイベントへの協力、学校行事などを通して、本町に明るい話題を沢山提供していただきました。改めて心からお礼を言います。

先ほど授与された卒業証書の末番号は2197号だったと思いますが、厚真高等学校が60年を超える歴史の中で輩出してきた卒業生の数となります。皆さんも多くの卒業生と同じく、伝統或いは歴史の一ページを立派に飾ることになりました。皆勤賞を受賞された皆さんにも、改めておめでとうと言います。やり遂げることの難しい中、大変立派なことであり、大いに自信を持っていただきたいと思います。

皆さんはこの厚真高校で、得難き時を過ごし、得難き沢山の友と出会ったと思いますが、いよいよ明日からは、甘えの許されない厳しい現実が待っています。これまで多くの方々から多くのものを与えられてきた皆さんですが、これからは自分の力で、勇気と知恵と努力で未来を切り拓いていかなければなりません。そのためにも希望や夢そして新たな目標をしっかりと持つことが大事です。

先日まで行われていた平昌オリンピックでは、大勢のアスリートの激闘にたくさんの感動を覚えました。皆さんも選手や関係者の途方もない努力の積み重ねと夢に向かうひたむきさに心打たれたと思います。選手の皆さんの発言には、「感動を共有したい。応援してくださる皆さんに感謝したい。」との言葉が並びますが、私たちのほうが、たくさんの勇気や元気をもらいました。こうした大会の際に必ず語られるフレーズに「努力すれば夢は必ずかなう。」とありますが、正しくは「努力しても夢が叶うとは限らないが、夢を叶えた人すべてが必ず努力している。」であり、「夢を叶えるためには正しい努力が必要である。」と補足しておきたいと思います。

もう一つ申し上げれば、先ほどの校長先生の式辞で触れていた「失敗を恐れて挑戦しないことを恐れる」は、私も大変重要な視点であると思います。七転び八起きとの格言もありますが、失敗を恐れていては成長を望めません。ただし、転んだ時に転んだ理由に気づくこと、失敗から学ぶことが大切です。「転んでもただでは起きないぞ」との心構えをもちたいものです。

皆さんの進むべき道も、決して平たんではありませんが、皆さんには大勢の理解者がいます。固い意志と困難に挑戦する勇気をもって、多くの出会いと一つひとつの努力の積み重ねを大切にしてください。いつか必ず大きな実を結ぶことになると思います。

結びに皆さんの未来に幸多かれと祈念し、保護者の皆様、諸先生方のご労苦に感謝申し上げ、厚真高校のご発展を祈念して、祝辞と致します。本日は誠におめでとうございます。

平成30年3月1日

厚真町長 宮坂尚市朗